

校長室だより

令和6年11月15日（金）
第 28 号
十日町市立中条中学校校長室

高等学校の入試制度について

今回は高等学校（以下：高校）の入試制度についてお知らせします。高校の概要については校長室だより 27 号でお知らせしました。まずは公立高校についてまとめます。

1 公立高校の入学検査について

公立高校の入学者選抜には「特色化選抜」「一般選抜」「欠員補充のための2次募集」があります。一つずつ見ていきましょう。



その1 特色化選抜

対象生徒は、スポーツ活動、文化活動、科学分野の活動等に秀でた実績があり、各高校の特色ある教育活動の中心的役割を果たすことが期待される生徒です。検査は個人面接ですが、学校・学科によっては必要な検査を行うところがあります。

特色化選抜面接等 令和7年2月10日（月）
内定通知 令和7年2月13日（木）

※一般入試より早く実施されます。

※以前実施された「推薦入試」は、現在行われていません。

近隣の高等学校で特色化選抜を実施している学校は以下のとおりです。
それぞれの学校で出願基準を定めています。

十日町高校…スキー（クロスカントリー）、陸上競技

十日町総合高校…スキー（ノルディック）

松代高校…地域探究 ※地域探究＝「総合的な学習の時間」等での地域連携の取組実績
八海高校…陸上競技、スキー（アルペン）、レスリング男子



その2 一般選抜

中学校卒業見込み及び中学校を卒業した者は誰でも受検できる入試です。すべての高校、学科で実施されます。全日制では5教科、定時制では3教科の検査と中学校から送付される調査書の合計で選抜されます。学校によっては学校独自検査を課すところもあります。

一般選抜学力検査 令和7年3月5日（水）
合格発表 令和7年3月13日（木）

※近隣の全日制で、学校独自検査を課す学校はありません。

※定時制は学校独自検査として、個人面接を課しています。

その3 欠員補充のための2次募集

一般選抜後、1人でも欠員が生じたすべての学校、学科で行われます。出願資格は、一般選抜までにいずれの学校にも合格していない生徒です。ただし、公立高校に併せて出願できる、

2次募集学力検査 令和7年3月19日（水）
合格発表 令和7年3月21日（金）

県内私立高校の入学者選抜（いわゆる併願）に合格している生徒も、2次募集に出願することができます。

公立通信制高校については、募集要項が別になっています。通信制高校を希望される方は担任に確認してください。



2 私立高校の入学試験について

私立高校の入学者選抜は、学校によって様々ですが、多くの学校で取り入れている形式をお知らせします。各高校の詳細は担任までお問い合わせください。

まず、私立高校入試で使われる用語を確認しましょう。



その1 「専願」と「併願」

私立入試でよく使われる言葉です。「専願」とは、その高校を第1志望として出願し、「合格したら必ず入学する」という約束での受験です。「併願」とは、他の高校を第1志望としていますが、万が一第1志望校が不合格だった場合のために受験するものです。

その2 「推薦入試」と「一般入試」

「推薦」とは辞書で調べると「人をその地位・名誉に適している者として他人にすすめること。」とあります。高校入試の場合は、推薦入試を希望した生徒について校内推薦委員会を開催します。個々の生徒について中学校生活の学習状況、生活状況について審議をして校長が推薦します（公立高校の特色化選抜も推薦入試と同様で、校内推薦委員会を設置し、その生徒について審議することになっています）。

「一般入試」には、校長の推薦等は必要ありません。私立の一般入試で合格した場合は、必ずその学校に行かなければならないという制約はありません。

一方、公立高校の一般選抜で合格した場合は、専願と同じ考え方でその学校に進学することになります。私立の「一般入試」は公立高校を第1志望にしている生徒も受験することから、定員よりも多く合格者を出している現状があります。一方、公立高校はほとんどの場合、募集定員でしっかりと合否が分かります。公立高校の一般選抜は、「専願」と同じ意味で「合格したら必ず入学する」ことが暗黙の了解になっているからです。

私立高校が第1志望なら、1月の専願入試から受験することになります。合格すれば公立高校に出願、受検はしません。私立の一般入試は併願と同じと考えるべきで、私立高校の一般入試に合格したら、公立、私立のどちらに進学するのか決めなければなりません。

その3 「併願推薦」とは

長岡市内の二つの高校で行っている入試形式です。「併願」と「推薦」の両方の要素を組み合わせています。帝京長岡高校の入試要項の併願推薦の出願資格には「人物が優れ、学習意欲が旺盛で、在学中学校長の推薦があり、入学後、しっかりとした高校生活を送る強い意志を持っている者」とされています。中越高校も同様です。両校とも調査書の評定値合計に〇〇以上という基準があります。生徒が当該高校への進学を第2志望としている場合は、中学校に申し込みます。中学校で推薦基準をクリアしているかを審議し、出願します。入学試験は行われず書類での審査となります。



さて、このたよりの中で「受検」と「受験」の使い分けをしていることにお気付きでしょうか。公立高校は入学者選抜のための「学力検査」や「学校独自検査」を実施します。だから、公立高校は「受検」です。一方、私立高校は入学者選抜のための「入学試験」を実施します。だから、私立高校は「受験」です。

さて、3年生にとっては、進路を決定する時期になってきました。12月10日（火）から三者面談が行われます。家庭で十分相談の上、三者面談に臨んでください。

これまで出願は中学校がまとめて行っていましたが、昨年度から、保護者によるWebを使用しての出願に変わっています。詳しくは後日お知らせします。

